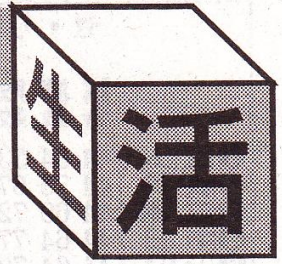


◎東京新聞



在宅の患者さんに薬を出す場合も、病院と同様に処方箋を発行

Dr. 松井英男の **在宅医療** の **カルテ**



在宅での薬

し、それを持って薬局まで行く必要があります。ご家族が取りに行くことも多いですが、一人暮らしなど、ご本人だけでは困難な場合があります。

その際は訪問薬局と連携を取り、薬を配達してもらえます。薬剤師が自宅まで薬を届けるだけでなく、内服方法なども指導します。薬を取りに行く手間が省け、服薬の仕方も教えてもらえます。

命にかかわるので、処方の間違いはあってはなりません。在宅医療では以下の点を確認することが必要です。まず、処方そのもの

「一包化」で確実に



家族の話も丁寧に聞く

の間違いや入力ミス。似た名前で適応症が全く異なる薬があるのでも、処方時と薬局での確認が必要です。次に調剤ミス。薬剤の変更が伝わらなかったり、薬の種類が多いと起りやすいミスです。

また、服薬指導の際にもミスは起き得ます。解熱剤の座薬を出した際、患者さんには「おしりに入れてください」と言ったのですが、「おしりに入れてください」と聞き間違えた患者さんがみそ汁に入れて飲んでしまった、という話があります。

患者さんが結局内服しなかったという場合もあります。飲み忘れ対策には、薬を朝、昼、晩に分けて袋に入れる「一包化」を行い、それを、日にちごとにポケットが付いた「お薬カレンダー」に入れておけば便利です。

薬が多いと、薬袋が増え、飲む用意も大変です。服用する時間帯ごとに「一包化」することで、間違いなく内服できるようにします。いずれにしても、薬については介護をする方にも確実に伝えることが必要です。(川崎高津診療所院長)

次回(10月23日)は二三日掲載